

水・食品の放射能汚染とその対応を考える

池上幸江 (大妻女子大学名誉教授)

- ・ これまで我が国の食品の放射性物質の規制は、輸入食品を念頭に置き、国内産については実質考慮外であった (汚染の心配はなかった)
- ・ チェルノブイリ、JCO臨界事故を受けて、部分的な修正が行われた。直近2003年設定
- ・ 今回の事故を受け、この指標値を厚労省は暫定規制値とし、この数値の科学的検証を食品安全委員会 (内閣府) に諮問した
- ・ 食品安全委員会は厳しすぎると言う声もあり、これまでの規制値は妥当としながらもセシウムについては倍に緩和しても不適切と言えないと補足をつけた
- ・ 1日許容摂取量 (A D I) は、安全が確保される最大摂取量に安全率をかけて設定される。この摂取が一生食べ続けても安全が確保されることが前提だが、原子力安全委員会における指標設定の詳細は、調べられなかった
- ・ 半減期には物理的半減期と生物的半減期 (体外に出ていくの意) がある

生物的半減期

	ヨウ素		セシウム
乳児	11日	1歳未満	9日
5歳	23日	9歳未満	38日
成人	80日	30歳未満	70日
		50歳未満	90日

- ・ ヨウ素は半減期短い。セシウムは量的には少ないが、カリウムと同様な動きで、特定の臓器には沈着せず、体内のあらゆる組織に分布。さらに土壤汚染が問題になる
- ・ 注意点 野菜の丁寧な洗浄・調理 / 葉物が深刻、種類を分散させる / 結球する葉物は外側の葉を外す / 接取する野菜の産地・種類を偏らないように / 今のところ根菜は安全 / 魚は植物連鎖の先にあり、当面問題ないと思われる (ところがカタクチイワシから検出の報道があった (別紙)) / バターチーズは当面問題ない
- ・ 強い検査体制を望む (山下長崎大医師が、「ロシアと日本の差は、ロシアは検査なしで食品が流通していた。日本は検査しているので流通物を食していれば安全」と言っていたがと質問した) 決して全数検査とは言えないので、言いきれないのではないかと。
- ・ 自分自身の判断力を養うことは、極めて重要

- 以上 -